



富士山日本語学校と、外国語専門学校で、スピーチコンテストが行われました。皆さんにもぜひ読んでいただきたい2名の学生のスピーチをご紹介します。

## 運命と戦おう

富士山日本語学校 SHRESTHA PRIYA

皆さん、運命についてどう思いますか。

信じられないかもしれませんが、私の国ネパールには多くの占い師がいるのですが、中学生のときに、ある占い師に、「あなたは運が悪いので、最低限の成功しかしないだろう」と言われました……。それを信じる人もいれば、信じない人もいます。父は運命なんて何でもない、それは私たちの努力次第だとよく言っていました。しかし、占い師の言葉は今でも私の頭に浮かびます。

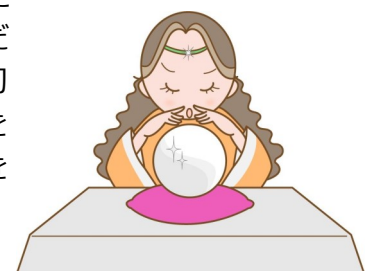
実は、私は小学生の時から運命について考えていました。家庭環境が良くなかったので、10代になるまでおもちゃや服をほしがったことはありませんでした。おそらく、私は他の子供たちのように物で遊ぶことができない運命にあると思っていました。成長し、大学に入学できました。大学の学費はとても安いので、私でも通うことができました。大学に通いながら、日本語を学ぶことにしました。それは、その頃はJLPTのN4レベルなら、就職できたので、早く稼いで家族を助けたいと思ったからです。

日本語を勉強しているときに、ある男性と付き合い始めました。しかし、彼は私の親友を選び、私を捨てました。その日、私は人生で最も愛していた2人の特別な人を同時に失いました。何もできないまま、2018年12月のJLPTを受験しましたが、不合格でした。そのとき、家族のことを思い出して、再び勉強に集中できるようになりました。そして、2019年7月にN3に合格しました。その日はとてもうれしかったです。なぜなら、日本の会社で働くという計画がもうすぐ実現すると思ったからです。しかし、私の運命には別のことが書かれていたようです。私は約3ヶ月間で仕事を探しましたが、私の資格は会社の条件と一致しませんでした。たった6ヶ月の間に、競争が激しくなり、就職にはN2が必要になっていたのです。それ以外にも、さらに多くの悪いことが起こりました。私はなぜこんな不幸な星の下に生まれたのかと思いましたが、悩んでいる暇はありませんでした。私は自分自身にやる気を起こさせ、もう一度N3レベルを学ぶことにしました。授業を受け始めて3日目に、仕事のオファーの電話がありましたが、クラスが始まったばかりだったし、仲の良い友達もでき、一緒に勉強しようと約束したので、断りました。ところが、数週間がたった後、その友達が「その会社」で働き始めたこと聞き、ショックでした。その後も数えきれないほどの不運に見舞われました。

さらに時が経ち、家族を説得して日本に来る許可をもらいました。しかし、運命が再び私にいじわるをしました。留学するために、住民票がいるんですが、誕生日などいろいろ間違いが多くて、村の村長は、もはやそれを訂正することはできないと言いました。私はたくさん泣きましたが、父の働きかけにより、村長は文書を訂正してくれました。ところが、直後に別の問題が発生しました。私はインドで教育を終えていましたが、ネパールの役人は、インドの高校はネパールの中学校と同じだと言いました。そのことにとても焦りました。私は運命が日本に行かせないように望んでいるのかもしれないと思いました。最終的に日本に来るまで2年もかかりました。

占い師の「あなたは運が悪い」、確かにそうかもしれませんが、しかし、時々良い運命だと感じることもあります。それこそが本当に重要だと私は思います。悪いことが起こったときだけ運命について話すのではなく、運命のおかげで良いことが起こったことに気づくのが大切なのです。人生には「宝くじ」のようなものが存在すると思います。すべての人が幸運を持って生まれたわけではありませんが、いつ運命が変わり、いつ望んでいたすべてのものを手に入れることができるのかは誰にもわかりません。私は戦います。

ご清聴ありがとうございました。



## 祖母からマツダ大尉へのお礼

エーウィットモンティン

ミャンマーの歴史を初めて勉強したのは、私が中学校3年生の時でした。勉強したことは、ミャンマーがイギリスと日本に植民地化されたことでした。その時、イギリスや日本という国がとても嫌いになりました。

私は子供のころ祖母に育てられていました。学校でミャンマーの歴史について勉強したことを祖母に伝え、イギリスと日本は酷い国だと言いました。すると、祖母はこんな話をしてくれました。

祖母が生まれたのはミャンマーがイギリスに植民地化された頃で、祖母の両親はその戦争で亡くなりました。ですから、祖母もまた私同様祖父母に育てられたのです。祖母の子供時代は戦争で逃げてばかりで勉強するどころではなかったのだそうです。そして、祖母が10歳のころ、今度は日本がミャンマーを植民地化しました。

祖母の育ての親のおばあさんは病気で歩くことができなかったので、祖母はおばあさんを背負ったり抱えたりして逃げ回ったそうです。逃げられなかったら爆撃で死ぬかもしれない、銃で撃たれるかもしれない……。ある日、「軍用機が来たぞ！」という声と同時に爆弾が投下されました。祖母はおばあさんを抱きかかえて逃げるのではとても間に合わない、死ぬかもしれないと思い、「日本の軍隊のほうに安全だ、あそこに逃げよう、捕まってもとりあえず死ぬことはない」と、日本の軍隊の方へ逃げました。

運よく、その軍隊の大尉さんは優しい人でした。祖母たちを助けてくれたのです。その軍隊の中には他にも救助された子供たちや高齢者たちがいました。大尉は子供たちを自由に遊ばせ日本語も教えてくれました。その大尉の名前はマツダといいました。3人の子供を持ち、彼のもともとの仕事は教師だったそうです。国の命令で軍隊に入らなければなりませんでしたが、自分も子供の親だから子供たちを殺すことはできないと言ったそうです。大尉は戦争が大嫌いなのに戦争をしなければならない、早く平和になってほしいとよく言っていたそうです。

平和になったらどうなるの？と祖母が聞いた時、マツダ大尉はこう答えたそうです。「平和になったら、自分の家で家族と安心して住めるよ、俺も家族と会える、子どもたちに会いたいなあ……」その時、祖母はマツダ大尉の話の意味がよくわからなかったそうです。なぜなら、イギリス戦争の時に生まれてからずっと逃げ続ける日々を過ごしていたからです。平和ということを感じたことはそれまで一度もなかったからです。ただ毎日怖い思いの連続で、逃げることに疲れ、戦争が大嫌いでした。

ある日、大きな攻撃でマツダ大尉は亡くなってしまいました。マツダ大尉のお墓が村の小川の横に作られました。マツダ大尉は最後まで子供たちにも会えず、日本がその後平和になったことも知らないまま亡くなってしまいました。

私の国ミャンマーでは、2021年2月1日にクーデターが起きました。またもやミャンマーは不安定な国に戻ってしまいました。クーデターはコロナ感染と同時に起きました。大勢の人々が毎日亡くなっていきました。お年寄りもコロナ感染で亡くなり、若者は銃で撃たれ爆撃されて亡くなっていきました。

その時、ミャンマーにいた私は不安な日々を過ごしていました。何事もなく平和に生活していたころのことを思い出し、平和の大切さを改めて感じていました。今回の戦争は他国からの侵略ではなく、同じ国の人間同士が戦い、殺し合っているのです。彼らの願いは国を平和にすることです。なんという皮肉でしょう。辛い思いを抱きながら、2022年4月私は国を離れて日本にやってきました。

日本に着いて最初に感じたのは安心感でした。普通に電車が走り、普通に人々が歩いている・・・車の音、風の音、鳥の声、子どもたちの笑い声、それらを聞きながら久しぶりに平和を感じました。日本に来てよかった・・・。平和や自然は何ものよりもかけがえのない宝物なのだとことを実感しています。歯がゆいことに、今の私には、私の愛する母国ミャンマーが一日も早くこの日本のように平和な国になりますようにと、毎日神様に祈る事しかできません。

祖母は私が高校3年生の時に亡くなりました。亡くなる前に祖母は私にこう言いました。大人になったら日本へ行って、マツダ大尉のご家族を探してお礼を言いなさいと。しかし、日本にはマツダという苗字はたくさんいます。探すのは正直難しいです。ですから、この場を借りて、祖母の代わりにマツダ大尉へのお礼を伝えたいと思います。

「マツダ大尉が戦争中に命を助け、日本語を教えてくれた子の孫が今日本にいて平和の意味を実感しています。それはあなたのおかげです！！」

